

# 学位論文内容要旨

氏名： 中込 啓一

【題目】 Exploratory Study of Attitudes toward Work among Pharmacy Students and Pharmacists  
(薬学生および薬剤師の就業意識に関する探索的研究)

## 【背景・目的】

近年、社会では新卒者の就業意識と職業との不適合による離職が問題視されている。若手薬剤師においても例外とは言えず、離職の原因に職業不適合があることが懸念される。意欲ある薬剤師の離職は、自身のキャリア形成不全のみならず、職場の活力低下、経済的損失を招く可能性がある。

海外では「薬学生や薬剤師の就業意識」に関し多くの研究がなされており、教育側（教員・学生）と実務側（薬局・病院）の双方で就業意識についての認識が共有化されている。しかしながら本邦ではこれらについての報告は極めて少ない現状であり、薬局や病院の雇用者側も薬剤師の就業意識を十分に把握しているとは言い難い。

一方、海外の研究においても薬剤師の就業意識を年齢、就業年数や満足度などでクラスタリングし、離職の可能性がある集団について調査した報告はない。

そこで、学生への適切な進路選択への情報提供および教育側、実務側の就業意識の概括的理解を目的とし、本邦での「薬学生および薬剤師の就業意識」に関して先行して探索的な研究を行い考察した。本研究は（１）薬学生の就業意識（先行探索的調査）、（２）薬局薬剤師と病院薬剤師の就業意識（探索的調査）から構成される。

教育側と実務側が就業意識への共通認識を持ち、学生の長いキャリア形成を考えて、不適合による離職を防止する上で極めて意義の大きいことと考える。

研究（１）薬学生の就業意識（先行探索的調査）

## 【対象・方法】

薬学部6年生（1～3期生、在籍者405人）を対象に2011年から2013年の毎年12月に就業意識調査を実施した。「性別」、「希望進路」、「決定進路」の3項目を回答したものを有効データとした。得られたデータを統計解析し、 $P < 0.05$ を有意差ありとした。

## 【結果】

有効データは295件、各質問での解析データ数は、不明データ、無回答を除いた。

就職活動前の「希望進路」選択の際、学生が「最も重視」したのは性別を問わず、「自己成長」であった（表1）。

「企業」、「大学院」、「病院」の進路者は「自己成長」を、「公務員」では「就業条件」を最も重視し、「薬局」進路者は「免許の活用」、「自己成長」、「就業条件」、「方針、理念」とほぼ均等に重視していた。

表1 進路を考える上で、最も重要視した項目(1つ選択)

重視した項目	計		性別				最終決定進路									
			男性		女性		薬局		病院		企業		公務員		大学院	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
自己成長が出来る	87	29.6	33	37.1	54	26.3	25	16.8	26	38.8	32	50.8	2	20.0	2	40.0
免許をいかせる	39	13.3	11	12.4	28	13.7	26	17.4	11	16.4	1	1.6	1	10.0	0	0.0
医療に関わりたい	35	11.9	6	6.7	29	14.1	12	8.1	17	25.4	5	7.9	0	0.0	1	20.0
就業条件(勤務時間、休日、その他)	32	10.9	8	9.0	24	11.7	25	16.8	3	4.5	1	1.6	3	30.0	0	0.0
方針、理念	27	9.2	5	5.6	22	10.7	22	14.8	2	3.0	3	4.8	0	0.0	0	0.0
その他	24	8.2	9	10.1	15	7.3	10	6.7	1	1.5	10	15.9	2	20.0	1	20.0
給料	16	5.4	9	10.1	7	3.4	10	6.7	0	0.0	6	9.5	0	0.0	0	0.0
教育制度	13	4.4	4	4.5	9	4.4	10	6.7	3	4.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
通勤に便利	8	2.7	2	2.2	6	2.9	4	2.7	2	3.0	1	1.6	1	10.0	0	0.0
継続学習	5	1.7	1	1.1	4	2.0	2	1.3	2	3.0	0	0.0	0	0.0	1	20.0
先輩や知人の勧め	4	1.4	1	1.1	3	1.5	1	0.7	0	0.0	2	3.2	1	10.0	0	0.0
仕事が楽	2	0.7	0	0.0	2	1.0	1	0.7	0	0.0	1	1.6	0	0.0	0	0.0
上場会社	2	0.7	0	0.0	2	1.0	1	0.7	0	0.0	1	1.6	0	0.0	0	0.0
規模、知名度	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	294	100.0	89	100.0	205	100.0	149	100.0	67	100.0	63	100.0	10	100.0	5	100.0

就職活動前「希望進路決定」において、「薬局実務実習」、「病院実務実習」及び「インターンシップ(企業)」の科目は学生に大きく影響した(表2)。「企業」進路者に比較して、「薬局実務実習」は「薬局」進路者に、「病院実務実習」は「病院」進路者に有意に影響し、また両実習は男性より女性に大きく影響した。

就職活動後「進路決定」に際し、全ての進路者において最も「影響」したのは「自分の考え」であり、「薬局」、「病院」、「企業」進路者では「採用担当者」が続いた(表3)。

表2 就職活動前希望進路決定への影響

	最終進路									
	薬局(薬)		病院(病)		企業(企)		公務員(公)		大学院(大)	
	N	mws	N	mws	N	mws	N	mws	N	mws
(必修科目)										
病院実務実習	147	4.41	67	4.69	64	4.14	10	4.40	5	4.40
薬局実務実習	147	4.46	67	4.36	64	3.91	10	4.20	5	3.40
(選択科目)										
インターンシップ(企業)	19	3.53	16	4.19	32	4.75	2	4.50	0	NA
(就職支援)										
学外会社説明会	141	4.27	65	3.94	62	4.55	10	4.00	3	2.00
学内会社説明会	140	4.08	67	3.85	63	4.25	10	3.50	3	1.67
(第三者の情報・相談等)										
友人	145	3.65	66	3.83	64	4.23	10	3.40	4	4.00
メディア	135	3.10	61	3.34	62	3.79	10	3.10	4	3.25
先輩	138	2.93	59	3.36	60	4.05	8	2.75	4	3.25
親	142	2.96	66	3.58	63	3.46	10	3.60	4	2.00
研究室の教員	130	2.77	65	3.69	59	3.56	10	3.00	5	5.00

mws: 加重平均スコア mean weighted score  
(score 0-5 中央値 median=2.5 (0-役立たなかった 5-大変役立った))

表3 就職活動後最終進路決定への影響

	最終進路									
	薬局(薬)		病院(病)		企業(企)		公務員(公)		大学院(大)	
	N	mws	N	mws	N	mws	N	mws	N	mws
(第三者の情報・相談等)										
自分の考え	149	4.57	67	4.43	64	4.83	10	4.80	5	5.00
採用担当者	147	3.56	65	3.37	64	3.83	10	2.10	4	3.50
友人	145	2.83	65	2.95	63	3.40	10	2.30	4	4.00
メディア	133	2.66	61	2.48	61	3.03	10	1.50	2	4.00
親	146	2.46	66	3.18	63	2.54	10	3.10	5	2.60
先輩	139	2.29	61	2.39	61	2.97	9	1.33	4	3.25
研究室の教員	141	1.91	66	2.94	62	2.61	10	2.00	5	5.00
薬学部事務就職担当者	111	1.45	51	1.65	54	1.33	10	1.30	2	4.00

mws: 加重平均スコア mean weighted score  
(score 0-5 中央値 median=2.5 (0-役立たなかった 5-大変役立った))

## 研究(2) 薬局薬剤師と病院薬剤師の就業意識(探索的調査)

### 【対象・方法】

薬局薬剤師および病院薬剤師を対象に就業意識調査を実施した。

「雇用形態」、「性別」、「婚姻状況」、「年齢」、「勤続年数」の5項目を回答したものから正職員を抽出し有効データとした。得られたデータを統計解析し、 $P < 0.05$ を有意差ありとした。離職の可能性を示すと想定される「今後の予定」を判別する要因の探索や就業意識のクラスター解析には多変量解析を用いた。

### 【結果】

有効データは薬局薬剤師 1270 件、病院薬剤師 429 件、各質問での解析データ数は、不明データ、無回答を除いた。

「職業選択理由」は、薬局薬剤師では「免許を活用したい」、病院薬剤師では「医療に関わりたい」がそれぞれ半数近い回答を示した。また、両者において「自己成長」の回答も高く、特に病院薬剤師は薬局薬剤師の2倍を示した。

現在の「仕事満足度」は、50 点以上を満足と定義すると、薬局薬剤師の 96.0%、病院薬剤師の 93.9%が仕事に満足し、薬局薬剤師の方が満足度は高かった。一方、両者において「給料」は「職業選択理由」での優先度は低かったが、「不満足」な項目の上位にあがった。

「今後の予定」として「5年以上」と「定年まで」を合わせた長期勤務予定者は、薬局薬剤師の4割、病院薬剤師の3割であった。また、両者で「定年まで」と「5年未満」を判別する重要な共通の要因として「仕事満足度」、「年齢」、「就業年数」が抽出された。

クラスター解析の結果、「今後の予定」に対して「5年未満」を示す集団として、薬局薬剤師では、「20代後半の男性および20代と30代後半の女性」、病院薬剤師では、「30代前半の男性および20代の女性」が分類され、「満足度70点未満」であった(表4)。

表4 薬局薬剤師と病院薬剤師の就業意識クラスタリング(抜粋)

クラスター	薬局薬剤師 (n = 1,228)				病院薬剤師 (n = 419)			
	3	6	7	8	3	5	6	7
N	114	141	174	139	27	91	59	33
性別	男性	女性	女性	女性	男性	女性	女性	女性
婚姻状況	独身	独身	独身 & 既婚	独身	既婚	独身	独身	独身
年齢	26-29	22-25	26-29	35-39	30-34	22-25	26-29	26-29
就業年数	2-3	<3	4-9	-	4-9	2-3	4-5	2-3, 6-9
満足度	50-69	50-69	50-69	<50	<60	60-69	50-59	60-69
今後の予定	5↓	5↓未定	未定	5↓未定	未定	5↓	5↓未定	5↓

今後の予定 定年：定年まで勤務 5↑：5年以上長期勤務 5↓：5年未満勤務 未定：わからない

### 【考察】

本研究の薬学生の就業意識調査では、学生の職業選択での最重要事項は「自己成長」であり、薬剤師の職業選択理由と同じ上位に位置する概念であった。海外で上位の職業選択理由として報告されている「給料」に対し、「自己成長」は本邦の薬剤師の特徴的なポジティブな就業意識である。これに応えるためには、どの進路においても新人教育時点からキャリア形成を念頭ににおいた継続教育の重要性を強調したい。

また、調査した科目では、「薬局」、「病院」、「企業」などそれぞれの進路者に応じて役立

った科目への評価が一致していることも含めて、「病院実務実習」と「薬局実務実習」は進路選択への影響が示唆された。学生の進路選択に科目が大きく影響することが考えられ、進路選択への情報提供としての多彩なキャリア関連カリキュラムが望まれる。

薬剤師の就業意識では、職業選択理由の上位に薬学生が重視した「自己成長」が示された。薬局薬剤師、病院薬剤師の9割以上が仕事に満足し、薬局薬剤師は病院薬剤師より「仕事満足度」が有意に高い。「今後の予定」は「5年以上」と「定年まで」を合わせて、薬局薬剤師の4割、病院薬剤師の3割と長期勤務希望者の割合がそれほど多いとは言えず、欧米同様に薬剤師の流動性が示唆された。希薄な帰属意識は専門職の特徴とも考えられる。

薬剤師の就業意識における「今後の予定」について、「仕事満足度」、「年齢」、「就業年数」、との関連性が示された。クラスター解析の結果「今後の予定」が「5年未満」を含む集団は将来離職の可能性もあり、仕事満足度の向上がその防止策の一つと考えられる。

海外の研究報告でも、仕事満足度の向上などは、給料の増加より、安定した労働力の保持とされている。本研究では、個々の薬剤師の就業意識は多様であり、常にその動向を把握することが職場の運営上重要であることを強調したい。

本研究は海外に比較して報告の少ない「薬学生や薬剤師の就業意識」の本邦での補完的研究の役割を果たした。むしろ薬学生の進路へ影響する事項や薬剤師の就業意識のクラスターリングなどは、先行探索的研究として、また新卒薬剤師の職業選択の不適合による離職を防止する上で意義が大きいと考えられる。

本研究を考察し、以下に3つの提案をしたい。

提案1：わが国で第三者機関による「薬剤師就業調査」の定期的な実施を提案したい。米国では代表的なものに“National Pharmacist Workforce Survey”（約5年毎）があり、定期的に米国薬剤師会雑誌に報告され、教育側と実務側の共通認識が構築されている。

提案2：薬学生の多様な進路を考慮したキャリア関連のカリキュラムの充実を提案したい。薬剤師以外の進路を選択する学生に対して、彼らの進路に対する情報不足には、カリキュラムによる情報提供が必要であると考えられる。

提案3：薬学生と薬剤師の医療人としての「自己成長」に応えるために、病院や薬局における臨床現場での初期研修を提案したい。新人薬剤師としての最初の動機付けが、その後の「自己成長」への成就に繋がると考えられる。

最後に、「薬局・病院実務実習」は進路選択に影響することが示唆された。それゆえ、実務実習に関わる教員はもとより、全ての薬剤師や職員の態度・言動、行動が学生の将来の進路選択に大きく影響することを喚起したい。